

北九州市の文化財を守る会 会報

No.2 46. 5. 28

年3回発行

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市八幡区西本町3丁目6番1号
北九州市教育委員会文化課内
電話(代表) 093-68-4931

昭和四十六年度総会 事業計画も審議

本会も二年目を迎え、いよいよ充実した内容の活動展開を期することとなった。先般の理事会で新年度事業ならびに予算の検討が行われ、おおよそ次のような事業、予算の大綱がまとまった。この原案は、来る五月三十日の総会の席上提案され、会員の承認を得た上で実施されることとなる。

新年度事業については、重点項目を次の三つにしぼり、その三本の柱を具体化するための行事計画や予算を組むこととした。

- 一、会員獲得による財政基盤の確立
- 二、会員相互の自己啓発と研修
- 三、文化財愛護精神の浸透

まず、会の活動を推進する原動力であるとともに、会財政の裏付けでもある会員の獲得に全力をあげることとなった。

従来の会員は引続いて会行事への参加、会費の納入をしていただくことは勿論であるが、特に新規会員の加入勧誘については、会員全員の積極的な協力をお願いしたい。

会員相互の交流と自己啓発をはかるための事業展開

会員が自己の資質を高め、文化財に対する知識と認識を深めるために講演会、講習会、文化財めぐり等の行事を企画実施することとした。

- (1) 講演会
総会を記念し、来る五月三十日開催されることとなった。講師は県教委文化課藤井功氏に「太宰府の諸問題」のテーマでご講演願う予定。
- (2) 文化財講習会
文化財に関する専門的な知識を修得していただくために、夏期に専門講師による講習会を開催するものである。講師、内容等具体的なものは未定。
- (3) 文化財めぐり
本年三月に実施し、好評を得た第一回目に引き続き行われるもので、本年度は六月と秋の二回実施を予定している。

第二回「バス・ハイク」実施の詳細は本紙第八頁をごらんください。
文化財愛護精神の浸透をはかるための事業
本年度は、文化財愛護運動の

第2回総会次第

- 開会のことば
- 会長あいさつ
- 議事
 - 昭和45年度事業報告および決算報告(本紙2頁並びに5頁参照)
 - 会計監査報告
 - 昭和46年度事業計画並びに予算案審議(本紙1頁並びに2頁参照)
- 閉会のことば
- 特別記念講演

講師 福岡県教育委員会文化課調査係長 藤井 功氏
演題 「太宰府の諸問題」

しい試みとして、地域における愛護団体の育成や『文化財愛護の日』(仮称)の設定によってさらに愛護精神の浸透深化を計ろうとするものである。

- (1) 地域における文化財愛護団体の育成

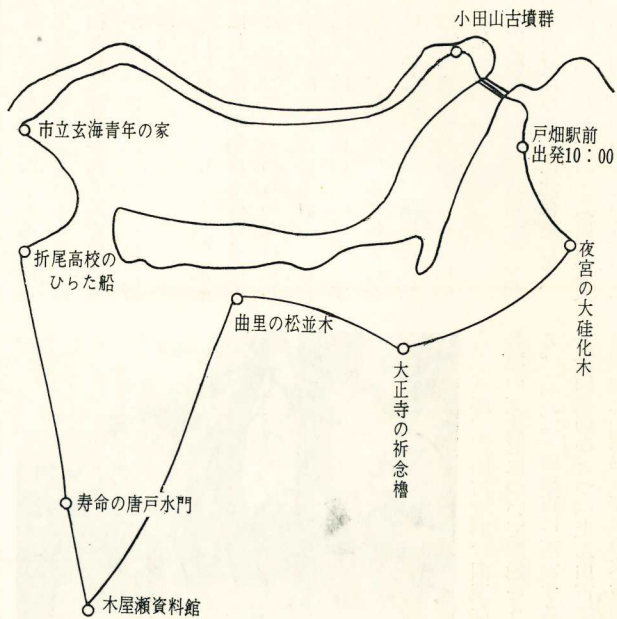
市内に所在する主要な文化財のうち今年度は次の四件について、学校や地域の協力を得て、グループによる愛護運動の推進をはかる。

- (一) 平尾台(国指定・天然記念物)
- (二) 夜宮砦(国指定・天然記念物)
- (三) 広寿山(県指定・史跡)

なお、このほか会では市内の文化財所在を調査し、確認を行う作業をすすめることにした。

第二回文化財めぐりの会員募集について

ご案内と実施要項



へ持参ください。

▼ご案内する文化財の解説

▼実施日と集合場所・時間 6月13日(日曜日) 国鉄戸畑駅前北九州市消費生活センター玄関前、午前九時四十分。

▼募集人員 八十名。応募できるのは本会会員に限る、ただし申込み時に46年度会費を納入する新規加入会員も可。

▼申込み方法 住所・氏名を明記した返信用のハガキを同封して、会費三百円を添えて本会事務局に送付するか、最寄りの市立図書館

は今日まで残っている貴重なものであり、当時の標準型。寿命の唐戸水門(市指定建造物) 本紙3頁参照。掘川開さく最後の難工事であった桶橋子寿命に所在している。備前国吉井川につくられた唐戸の技法を導入してつくられた。

。木屋瀬資料館 藩政時代、宿駅としてにぎわった木屋瀬は民家の屋並を始め、各種の民俗資料の宝庫ともいえる。地元の皆さんのご協力によって、この地の歴史を語る各種多様な民俗資料が資料館に並びに所蔵展示され、遠近の見学者に公開している。

。曲里の松並木(市指定史跡) 本紙3頁参照。大正寺の祈念櫓(県指定建造物) 黒田藩主の居城だった福岡城の旧材を利用して再建したもの。夜宮の大砦化木(国指定天然記念物) 松柏類の化石としては日本最大のもので、地質時代の北九州地方の林相(植物の繁茂のしかた)を探る貴重な手掛りとなる。(コース、ご案内する時間は、当日都合により一部変更することがありますので、あらかじめご了承ください。)

※昼食は、各自でご用意していただきますが、市立玄海青年の家で百二十円程度で中食の用意ができますので、希望者は申込みの際、はっきりと併記してください。

下関・郷士の文化財を守る会会報第一号 海をへだてたお隣り、下関市では、綾羅木郷遺跡破壊の問題を契機に、去る四十一年五月二十八日「郷士の文化財を守る会」が結成された。爾来、遺跡発掘調査の補助や破壊阻止運動を行なうとともに遺跡展や史跡めぐりを実施している。去る三月に会報第一号を発刊し、広く会員の参加を呼びかけている。発行所 下関市役所社会教育課内

ミニレター 会報相ついで発刊

ふるさとの自然と歴史創刊号 昭和四十一年一月に「歴史と自然を守る会」が福岡市に誕生した。開発に名を借りて、歴史を軽視した無計画な破壊から、県内の美しい自然を守るための運動を推進するため、はば広い活動を続けている。昭和四十五年六月に法人組織に改組、現在は、「社団法人歴史と自然をまもる会」となった。この早春三月、B5版32頁の機関紙を発刊した。六月以降は月刊紙として発行予定。定価 一五〇円。発行所 福岡市渡辺通り二の十 平島ビル508号

事務局だより

◎ 晩春というより初夏の候となり照りつける太陽に木陰が欲しくなりましたが、会報第二号をお届けいたします。

◎ 発会第二年次を迎えた今年度は本会の真価が問われる大事な時期でもあります。会員ひとりひとりの自覚と実践が期待され、要請される年でもあります。今年度本会では、各種の事業を企画しています。これらの事業に積極的に参加して、会員相互の交流を深め、親睦を図ることとは勿論、研修を重ね、意見の交換をしましょう。

◎ 本紙はいうまでもなく会員皆様のものです。会員の皆様が文化財についてもって居られる意見・所感、あるいは研究中のものなど、何でも結構ですから原稿を本会の事務局までお寄せください。(締切日はとくに設けていません。)

昭和45年度収支決算報告書

Table with columns for '区分' (Division), '収入の部' (Income), and '支出の部' (Expenditure). It details financial transactions for the 1970 fiscal year, including membership fees, administrative costs, and cultural activities.

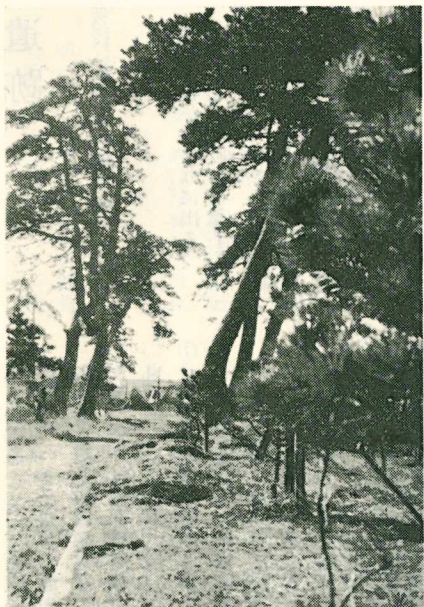
昭和46年度歳入歳出予算書(案)

Table with columns for '区分' (Division), '収入の部' (Income), and '支出の部' (Expenditure). It presents the proposed budget for the 1971 fiscal year, covering membership fees, administrative expenses, and cultural programs.

北九州市文化財保護条例にもとよんで 初の市指定文化財決まる

北九州市内に所在する各種の文化財(国・県指定の文化財としてすでに指定をうけたものは除く)のうち、市にとって重要なものについて保存と活用を図るために昭和45年4月制定された「北九州市文化財保護条例」の規定にもとよんで、初の市指定文化財7件が、さる4月21日指定されました。

時代の小倉城下と近郊の風物をスケッチした画帖。作者は天井絵馬などを残した幕末小倉城下で活躍した村田成成。小倉図絵ともいふべきこの画帳も現在、資料館で展示されています。



曲里の松並木 (八幡区東曲里)

は他に類を見ません。本会の若松支部会員などから保存についてのかねてからの陳情が実ったものであり、今年度(46年度)の事業として、市教育委員会では「古墳公園」として整備を進める模様。

北九州市立郷土資料館

小倉城内に3月29日からオープン

本会の会員や郷土史研究家などの永い間の願いがかなって、3月29日小倉城内に設けられた北九州市立郷土資料館がオープンしました。

小倉の森鷗外遺跡

北九州大学教授 小林 安司



○西小倉

- ① 旧小倉停車場 室町（場所は新居表示による）
昭和三十三年までの旧駅。「小倉日記」「自紀材料」には、鷗外の停車場での送迎記事が多い。明治三十五年三月に鷗外夫妻が離倉の際、駅頭は官民千名に及ぶ見送り人で近來にない賑であったと「門司新報」に見えている。
- ② 旅館達見址 室町
昔の長崎街道の町筋に面し、停車場、師団司令部に近く、鷗外が小倉着任の当初に止宿した「鷗」には逢見のおかみに下女の斡旋を頼むところがある。福岡博もはじめ投宿する。現在の玉水旅館のところ。
- ③ 小倉借行社 区役所構内
借行社は師団の将校たちのクラブ。「小倉日記」「自紀材料」に借行社がしきりに出る。
- ④ 第十二師団司令部址 城内
鷗外着任の半年程前に落成の白亜二階建。二階正面が師団長の部屋、西棟二階が軍医部で、鷗外は毎日乗馬で登庁していた。終戦後進駐軍が使用していたが、その後撤去された。今の天守閣傍の広場のところ。
- ⑤ 西部都督府址 城内
旧松の丸に師団司令部と道を隔てて正面。四国、中国、九州の四ヶ師団を管轄する都督府は程なく廃止され、皇太子殿下（大正天皇）御西下の際に仮泊所となり、鷗外は軍医部長として設営に忙殺された。小倉図書館がおかれていたこともあったが戦後に撤去された。いま構内の隅に岩松助左エ門頭彰の燈台塔がある。
- ⑥ 歩兵第十四聯隊址 城内
鷗外は明治三十二年七月、小倉視察の旧師ベルツ博士を案内して始めてこの兵営にくる。鷗外に親しい乃木が西南の役に

この聯隊を率いて奮戦したの
は有名。いま小倉図書館の前庭
に「歩兵第十四聯隊之趾」の碑
が建っている。旧藩時代の三の
丸。

- ⑦ 小倉練兵場 城内
十四聯隊兵営に南面する広い
一帯。鷗外は練兵場で挙行の観
兵式や招魂祭に正装で参列して
いた。軍縮で師団司令部が久留
米に移転の後、昭和八年小倉造
兵廠となったが、今は工場や商
社などが建ち並んでいる。
- ⑧ 安国寺 堅町
由緒深い豊前の安国寺の後身
当時八破屋傾棟見る影もなき堂
宇Vで、玉水俊雄が入って再立
鷗外の和尚との親交は「独身」
「二人の友」で有名である。鷗
外に「小倉安国寺の記」（福岡
日日）「小倉安国寺古家の記」
（門司新報）があり、後者は境
内にある伊達宗興の墓の記事で
ある。曹洞宗。

○東小倉

- ① 鍛冶町旧宅 鍛冶町
最初の一年半ほど居住した人
練の音のする家Vで、「鷗」
の舞台。今は家主の孫娘の宇佐
美まささん一家が住んでいる。
戦前の昭和十三年に田上耕作が
八森鷗外居住の趾Vの標柱を独
力で建て、鷗外を顕彰した。

② 東禅寺址 堺町
安国寺の末寺で曹洞宗。鷗外
は当時住職片山文器提唱の「碧
巖録」の参禅の会に参加し、ま
た心理学会をこの寺で開講して
いたため、「小倉日記」「自紀
材料」にこの寺の名がよく出る
昭和二十年二月類焼し、今は土
塀の一隅を残すのみ。堺町会館
の一帯。

- ③ 井上師団長宅址 紺屋町（小文字通）
井上光中將は小倉着任後、は
じめ遠見に投宿のちここに住
む。近くに住む鷗外はよく師団
長宅を訪問して親交を重ねて
いた。
- ④ 小倉第二尋常小学校址 堺町
いまの小倉小学校の地。明治
三十四年四月の新築開校式には
井上師団長らと鷗外も参列し
た。後の小倉高等小学校、堺町
校。
- ⑤ ハインドの宣教師館 鍛冶町
明治三十三年四月の「小倉日
記」に「十日、雨、夜英吉利宣
教師ジェムス・ハインド James
Hind 来り見ゆ。鍛冶町百七番
地に住めりといふ。」翌日に晩
餐に招かれ、アルガイルの著書
を翻閲したとある。今の聖公会
インマヌエル教会。ハインド牧
師のち戸畑に布教し、広く北
九州市民に知られていた。
- ⑥ 勝山山門部址 鍛冶町

⑦ 長浜浦 長浜
当時は砂津川尻の漁村。「鷗
」に長浜の盆踊、「小倉日記」
に盆踊に因連してこの地の奪掠
婚のことが見えている。盆踊の
句に入満潮に踊の足をあらひけ
りV、また八長浜、磯はたや蟹
木に上る五月雨Vが同じく「小
倉日記」に見えている。

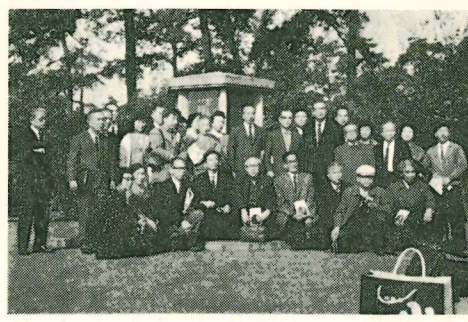
- ⑧ 小倉高等小学校址 米町
「小倉日記」によると、鷗外
は明治三十三年十一月二十三日
の夜、心理学の講座を本校で開
始した。のち会場は東禅寺と変
る。明治三十五年二月同校の展
覧会に新婚のしげ子夫人を往か
せたことが「自紀材料」に出て
いる。ここは明治初年の旧公立
小倉中学で、のちに米町小学校
となる。今の新小倉ビルのとこ
ろ。
- ⑨ 永照寺 米町
西本願寺派豊前の名刹、六代
西吟は本山の学僧として有名。
鷗外は明治三十四年四月同寺で
挙行の徴兵検査を視察した。当
時この附近は寺院が密集して八
寺町Vといい、盆の八線香山V
が「鷗」に書かれている。
- ⑩ 三樹亭址 魚町（旧京町）
当時小倉目貫の京町通りの角

- ⑪ 京町宅址 京町
鷗外の二度目の家で一年三カ
月ほど居住する。「独身」の舞
台で、前に料亭、近くに花街が
ある八太鼓の音のする家V。「
即興詩人」の訳を完成し、しげ
子夫人と新婚生活に入ったのも
この家。昭和三十三年小倉駅新
設のため撤去し、今日駅前広場
の一角。
- ⑫ 旧旭町 小倉駅の西
京町宅に隣接する花街。鷗外
は小倉着任当初八千住南組ヨリ
少シ小キ位V入着任以来遊廓へ
足を入れること厳禁Vと母堂に通
信していた。「小倉日記」には
呑海楼などでの宴会や旭町海岸
の廿六夜待の花火の記事が出て
くる。
- ⑬ 常盤座址 船頭町
明治三十三年七月福岡県教育
会総会の会場。鷗外は中嶋力造
博士と講演、題は「パウルゼン
Paulsen 倫理説の梗概」、「午
後の炎熱甚しく聴衆千を踰ゆ。
汗流れて淋漓たり。」と「小倉日
記」にある。今は東宝の映画館
- ⑭ 常盤橋
紫川尻、九州諸大名の参勤交
代には長崎街道のこの橋を渡つ
た。鷗外も毎日この橋を乗馬で
渡って登庁した。橋の東たもと
に「独身」に出る広告塔があっ
た。鷗外の句八夕常盤橋上所見
稲妻を遮る雲のいろの濃きV
が「小倉日記」に見えている。
- ⑮ 旅館梅屋址 船場（旧宝町）
鷗外の着任当初に新築された
三階建の小倉の高級旅館。来倉
の高官らが止宿したために鷗外
はよく梅屋に來た。場所は今の
井筒屋本館のところ。
- ⑯ 企救郡役所址 馬借町
鷗外は、企救郡教育支会の名
誉会員に推され、明治三十三年
七月郡役所楼上で開催の教育会
で「普通教育の軍人精神に及ぼ
す影響」と題して講演し、その
際に教員の待遇改善にも言及し
た。今の市立病院の北。
- ⑰ 開善寺址 馬借町
藩主小笠原家信州由緒の曹洞宗
の寺院。享保大飢饉の供養塔が
有名。鷗外は明治三十五年二月
訪れて境内の石塔を調査して記
録している。寺は移転し、今は
スーパー・ユニード。
- ⑱ 公会社址 香春口
明治三十二年十二月から鷗外
は公会社に通い、ベルトラン神
父に仏語を学び、その上達著し

く、神父から後に八神に等しき
人Vとまで驚嘆された。（「軍
医森鷗外」）鷗外も仏語修得は
小倉時代の収獲と自ら語ってい
る。今の小倉カトリック教会。

○郊外

- ① 篠崎八幡 宮ノ尾
紫川中流左岸の丘上。明治三
十二年九月、鷗外は社司川江直
種を訪れ、豊前の故跡を聴き日
暮に及んだ。川江老は鷗外東京
帰任にあたり長歌を贈って惜別
その歌は「小倉日記」に書き留
められている。
- ② 勝山公園内の鷗外文学碑の前



（東京鷗外会の一行・昭和45年秋）勝山公園内の鷗外文学碑の前

- ③ 妙見宮 足原
御祖神社といひ足立山麓の丘
上に鎮座。和氣清磨の九州配流
ゆかりの神祠で、鷗外は明治三
十五年三月に参詣、燈籠、石標
などを調べた。これより先、「
和氣清磨と足立山と」を門司新
報に寄稿し、続篇も書く。
- ④ 広寿山福聚寺 足原
足立山麓、藩主小笠原の菩提
寺、寛文年間即非の開基にかか
る黄檗の名刹。鷗外は明治三十
五年二月寺を訪れ、境内の扁額
柱聯の文字を克明に記録した。
なお鷗外は「即非年譜」を「福
岡日日」に寄稿している。
- ⑤ 延命寺 赤坂
市街の東郊、彦島に面し風光
明媚。鷗外ははじめ福岡博と訪
れ、丘上の官本武蔵碑を觀、三
度目に全文を写し終えた。碑は
もと手向山上にあつて、武蔵の
嗣子宮本伊織が建立し、高さ約
三米、文字千百十一字。今では
再び移されて手向山公園に、新
設の小次郎碑と並び、舟島を望
んで建てられている。

昭和45年度「北九州市の文化財を守る会」のあゆみ

45・4・13	郷土の文化財を守る市民運動として、「北九州市の文化財を守る会」の結成の話し合いが関係者によって行われる。	記念行事として、九大教授谷口鉄雄氏による「北九州の文化財」と題する特別講演実施。
5・14	「北九州市の文化財を守る会結成準備委員会」発足。会則案決定。委員長に劉寒吉氏きまる。	「文化財防火デー」。「防災懇談会」広寿山福聚寺において開催、本会々員も参加。
7・2	会員募集開始。	会報 No.1発行。
1・16	発会式をかねた第一回総会開催。会員331名。会長に菊池安右衛門氏きまる。総会	第1回文化財めぐり（門司・小倉地区）実施。参加会員42名。

（筆者は本会副会長 兼 小倉支部長）

黒崎
浄蓮寺の

「翁塚」について

加瀬商會社長 加瀬 康 作



西鉄「藤田」電停より東南歩いて四、五分の高台に浄土宗、浄蓮寺があり、この境内の東北隅に自然石の「芭蕉翁」と刻まれ翁塚がある。

黒崎は九州と本州との接点であり、また筑前六宿の北の宿駅として重要視され、黒田長政の老臣井上周防之房が黒崎城（黒崎窯業西の城山）を築いていたが、元和元年幕府の一國一城令により廢城となり、寛永十五年に代官所、郡家を藤田村（現在の丸徳家具店一帯）に置き、東横口（田町）と西横口（熊手）の東西の関番所を設け、非常を戒め、婦女は券契がなければ他国に通ることを許さなかった。九州の各地から黒崎に通ずる道を長崎街道と称せられて肥前肥後筑後からの三勤交代や、伊勢、本願寺参り、京見物、難波行人馬の往来しきり、そのため、

御茶屋（本陣ともいい、殿様の休憩所）、町茶屋（脇本陣）をはじめ旅館、駕籠屋、回船問屋が軒をならべ、人馬継所等が設けられ町は繁盛を極め豊かであった。こうした町であれば住民の心も豊かで詩歌、管絃、書画、茶道等の風流をたしなむ者多く、特に連歌、発句、俳諧師等の往来によりこの町の旦那衆は一段と刺激され、この道で楽しんでいた。これらの人々の作品は数多く残されているが、当時この町を訪れ句会を持った人に談林俳諧の総帥西山宗因、芭蕉十哲中の人、各務支考（美濃）、向井去来及び雲鈴（京都）、広瀬惟然（美濃）をはじめ、朱拙、魯九、露川、燕説、助然などがあり、そのつど黒崎の俳人たちの制作熱をかきたてたと思われる。中でも久芳水風（水札としたこともある）と関屋沙明の両人は抜群で全国の蕉門俳壇にその名を挙げている。この地には和由、調五、一保、帆柱、一定、在中、染筆等相等の俳人がおり、互いにこの道に精進した。これらの句の記録は原稿の制約上割愛する。

こうした人々の中から芭蕉翁を偲び、その記念の塚の建設が水風沙明を中心として行なわれたのは当然のことである。この翁塚には年月日、その他全く刻んでないが筑前蕉門の権威者、別府大学の松本義一教授の研究では、黒崎、長崎、日田に翁塚の建設が元禄の末期に行われ、そのうち黒崎が九州で最初の翁塚であると断定されている。私達八幡五郎ロータリークラブの史蹟保存委員会は、浄蓮寺が納骨堂建設のためこの郷土にとって貴重な文化の記念塚を他の墓石と共に排除するとの報に驚き、直ちに翁塚と水風、沙明の墓石も共に垣をめぐらして現在の場所に移し、後世にその遺蹟を保存することとした。水風をはじめ黒崎の俳人が日本の各地の俳壇にその句蹟を残したものを列挙すれば、元禄九年京都の「初柳」「泊船集」「筑紫貝」、大阪の「淡路島」、三河の「俳諧曾我」、名古屋の「記念題」、支考の「臬日記」「西華集」、江戸の「統別座敷」「木曾の谷」、美濃の「春の鹿」、去来の「渡鳥集」、伊勢の「西国曲」金沢の「喪の名残」、井波の「旅袋」「続有磯海」、九州では日田の「けふの昔」「後れ馳」、筑後の「百曲」、長崎の「寒菊隨筆」内野の「蝶すがた」、箱崎の「染川集」等である。



浄蓮寺境内の「翁塚」

代より必ずしも名句といいきれぬところがあるにしても、当時の其角の洒落風、支考の美濃風、乙由の伊勢風などの影響もあり、歴史の時代的理解について鑑賞すべきである。

(帆柱の夏雲)	宗因	(宮山薄桜)	染筆
黒坊が帆柱山の夏の雲	宗因	ざれかゝる松の木のまの桜かな	染筆
(船浦「舟町」星祭)	去来	(乱橋「熊手」螢火)	沙明
打つけに星まら顔や浦の宿	去来	ほたる飛び松のはずれや乱橋	沙明
(中瀉「洞海湾」民鳥)	惟然	(白竹田植)	水風
ならばしや隴の中の海の鳥	惟然	水鶏鳴くやしきの下の田植哉	水風
(山寺・秋暮)	支考	(躍崎「皇后崎」燈火)	野坡
脇息に木兔一羽秋寒し	支考	竹を焼く火燐前にみゆ磯の秋	野坡
(島の冬日)	一定		
海風つく棹の夕日や浪がしら	一定		

（筆者は本会副会長 兼 八幡支部長）

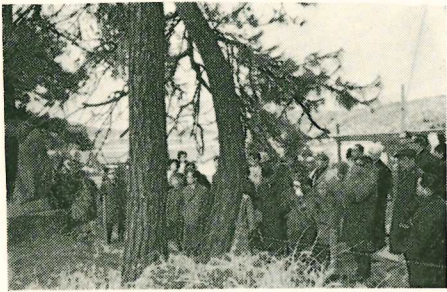
北九州市の文化財を守る会 第一回文化財めぐり報告記

春とは名のみ、前夜来寒波がもどろすっかり冷え込んだ3月14日は、午前中は時々雪さえちらつく文化財めぐりには最悪の日曜日になった。それでも各区からの参加会員は集合場所の門司港駅前に集合してきた。

定刻、抽せんで座席を定めた後門司港駅（この駅舎は大正初期の竣工で、当時市内はもちろん西日本では最もモダンでハイカラな建造物として評判が高く多くの見物人があった）を出発し、一路白野江に向う。

① 白野江の「里桜」 関門海峡に面して強い季節風を受ける旧門司とは違って、やわらかな日差しに春の気配さえ感じられること白野江の、四季の丘の入口に所在する里桜は、早い春にさすがに花をつけていなかったが、県指定天然記念物の貫録十分の偉容を會員の前に見せた。

② 青浜の「梅花石岩層」 企救半島白野江をさらに北に進むと、青浜の「梅花石岩層」（県指定天然記念物）が露出している海岸に。指定区域を劃する有刺鉄線が波打際迄延びきつていないことを指摘した會員もあつた。海百合の化石を含む梅花石が、すでに江



掘越の十三塚で説明を聞く参加者

戸時代から赤間関の硯石とともに奇石として知られていたとの説明をうける會員の目は、指定区域に接する岩層の断面に残こされた破壊のあとに一瞬くもる。

③ 首根の「上山古墳」 青浜海岸から大横にひきかえし、會員をのせた貸切バスは、恒見・吉田を抜けて首根に直行。途中車内で

吉志城跡、吉田古墳群、沼染など各種の文化財について解説をうける。やがて首根貫に所在する前方後円墳のひとつ「上山古墳」の現地に到着。昨年の秋破壊され、現在修復工事がなされている後円部の現場に集まって、大和朝廷の勢力拡大の歴史を刻むこの前方後円墳についての説明を聞く

とともに、會員は埋蔵文化財についての認識を新たにした。

④ 掘越の十三塚 日田・彦山線の蒸気機関車が真近を通る小高い丘に所在する現地で、十三塚（県指定民俗資料）についての種々の学説の紹介があつたが、このものが現在まで県内に残されている唯一の貴重な文化財であるということに強い印象をうけた。静かな環境のなかで、永くそのまま保存して行きたいものだ。

⑤ 広寿山福聚寺 広寿山と普通わかれわかれ呼んでいる広寿山福聚寺は、どこか京都あたりのお寺といった感じがすると思つたら、やはり京都山城の宇治万福寺を本山とする黄檗宗の寺であると紹介された。まったく広々とした境域は県指定史跡に指定されているのも当然で、工芸品・絵画など多くの文化財を所蔵しているとのこと。その一部を見学したが、一日ゆっくり見学したいものだ。それにしても、緑の足立山を背景として、この地に堂宇を建てた即非という中国から渡来したお坊さんのセンスには感嘆させられる。

広寿山を出て、小倉図書館裏の新勝山公園内に一月できあがったばかりの「万葉の庭」に向い、同庭の万葉歌碑を見学した後、半日楽しく郷土の歴史と文化財について勉強してきた會員とは再会を約して別れ、家路を急いだ。

さきにかかれた本会の理事会で、本会の充実と飛躍を期するために、「會員倍增」をキャッチフレーズに、新規加入の呼びかけを、さらに積極的に行なうことを申し合わせました。

新規会員獲得のお願い

本会発展にご協力を

は、申込用紙（事務局または各区市立図書館に用意しています）に住所・氏名その他必要な事項をご記入のうえ、会費と一緒に事務局に郵送（振替口座の番号は福岡三九三です）するかまたはもよりの市立図書館へ持参ください。

46年度の新規会員は會員名簿の追録として、いずれ印刷して會員の皆様には配布いたしますが、5月25日迄に事務局で整理いたしました新年度加入の状況は次の通りであります。

- ▼ 會員 門司区古海政雄氏 他一六九名
- ▼ 賛助（個人）會員 小倉区村上大仙氏 他八〇名
- ▼ 賛助（法人）會員 門司区 他一五〇名
- ▼ 団体加入 戸畑区牧山小学校 他一四校
- ▼ 九州電力（株）北九州支店から一百万円の寄付 地元公共事業を代表する九州電力（株）北九州支店から一百万円のご寄付の申入れがありましたので、本会ではありがたくお受けいたしました。この欄をかりて、ひろく會員の皆様にご報告申し上げるとともに、九州電力北九州支店にお礼申し上げます。

旧年度会員については、会報第一号の紙上でお願い申しあげましたところ、すでに多数の會員の方が46年度の会費を納入していただきました。厚くお礼申し上げます。会費納入のお済みでない會員の皆様には、再度この欄をおかりして会費納入のお願いを申し上げます。

新規加入を希望される場合に